

## チームワークで安全確実な医療を

私は学生時代最後まで診療科の選択を迷っていましたが、扱う疾患の領域が広いことと手術から薬物療法まで治療の幅が広いことを決め手に耳鼻いんこう科を選びました。この選択は今でも間違っていたと確信する一方、耳鼻いんこう科医を30年以上続けていてもこの科の診療の奥深さと難しさを日々感じております。

私は耳手術を主に担当しておりますが、ともに耳手術を担当する松本部長ともども、もう少し手術症例を増やせばと考えておりますので、近隣の先生方は症例がありましたらぜひご紹介ください。

今までいくつかの病院に勤務してきましたが、当院が最も診療レベルが高く、診療科間の連携も良いように感じます。当科も幸い部下の先生方に恵まれ、当院に恥じない診療レベルを維持できているものと自負しております。

良い環境で診療を行えていることに感謝しつつ、地域医療への貢献と若い先生方の育成に尽力したいと思います。



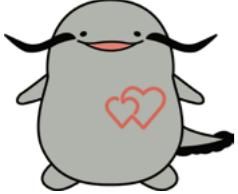
## FACE



## Information

## 滋賀県立総合病院Instagram・Facebookのご案内

病院の活動を発信しています。  
ぜひフォローをお願いします!



イメージキャラクター「びわずん」



Instagram



Facebook

## ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見や  
ご感想をぜひお寄せください。  
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォーム  
よりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌  
「FACE」に関するアンケートフォーム



笑顔で患者に寄り添いチームで取り組む姿勢を基本とし  
子どもから大人まで安心・信頼・満足の得られる高度かつ専門的な医療の実現



## 小児耳鼻いんこう科の歩み

当科は元小児専門病院の常設耳鼻いんこう科として、県内でオンリーワンの重要な役割を果たしています。

### 1 当科の歩み

一般的な守備範囲の小児耳鼻いんこう科医療を提供していましたが、全国的な新生児聴覚スクリーニングの普及に加え、1999年の小児人工内耳医療の開始、2018年の聴覚・医療コミュニケーションセンター設立といった、時代の潮流や大きな恩恵を受け、今では小児の難聴センターとして県内で中心的な役割を果たすようになりました。

### 2 小児難聴への取り組み

幼・小児期の両側中等度以上の難聴は、放置されると言語発達、ひいては全人的発達に支障をきたすため、まずは難聴早期発見のために新生児聴覚スクリーニングにて要精査となった県内外のお子さんや、乳幼児定期健診で難聴や言語発達遅滞が疑われた県内の赤ちゃんを積極的に受入れています。続いて補聴器調整、言語訓練などの療育までを一貫して実施、継続すべく、院内外の多職種の方々とも幅広く連携し、包括的な支援ができるよう配慮しています。

当科は人工内耳医療の本邦導入初期から京都大学医学部附属病院と連携して小児人工内耳医療に関わっています。現在は、難聴診断とその原因検索（先天性難聴の遺伝子検査など）に始まり、人工内耳適応の判断、人工内耳埋め込み手術、術前・術後のリハビリーション・言語訓練、その後の就学や就職の支援、地域に対する指導・啓発まで、小児人工内耳医療の全過程をカバーし、県内の小児人工内耳症例の対応を一手に担っています。

### 3 小児の嚥下障害や構音障害への取り組み

嚥下領域専門の言語聴覚士が中心となって嚥下専門外来を開設し、基礎疾患有する患児などを中心に、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査などによる正確な嚥下機能評価と、その結果に基づくきめ細かな訓練を提供しています。

その他、口蓋裂のお子さん等の構音訓練（形成外科と協同）も実施しています。

### 4 総合病院小児耳鼻いんこう科としての抱負

今後も1人1人のお子さん・ご家族に寄り添ったきめ細かい医療の提供を目指し、スタッフ一同が日々謙虚に精進してまいりますので、皆様のお力添えをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

医療を目指して  
診断から治療まで  
低侵襲で根治性の高い



耳鼻いんこう科はその名通り耳・鼻・のど、そして頸部を守備範囲とする診療科であり、扱う疾患は多岐にわたります。これらに対し、手術のほか、薬物療法や放射線療法を行っています。

また、令和7年1月に小児保健医療センターと統合したことにより、小児耳鼻いんこう科も設置しています。

### 頭頸部腫瘍

咽頭がん、喉頭がん、口腔がん(舌がん、歯肉がんなど)、鼻腔・副鼻腔がん、甲状腺がん、唾液腺がん(耳下腺がんなど)の治療を行います。これら臓器の良性腫瘍に対する手術も行います。

治療に際しては根治性を損なわない範囲で極力機能温存を心がけています。咽頭・喉頭がんについては化学放射線療法で治癒する症例が増えています。初期のがんに対しては胃がんや大腸がんに行うのと同様の内視鏡下切除術を行っ

ており、外切開が必要な従来の手術と比較して機能低下が大幅に少なく済んでいます。口腔がんに対しては手術療法が中心となります。進行例に対しては切除した舌や下顎骨の代替となる筋肉・皮膚・骨を身体の他部位から移植する必要があり、形成外科と合同で切除と再建の手術を行います。

### 耳疾患

鼓膜に穴が開いて耳漏や聴力低下を生ずる慢性中耳炎や、周囲の骨を溶かして増大する真珠腫性中耳炎に対して鼓室形成手術を行っています。また従来の方法では聴力を回復させることのできない高度感音難聴に対して人工内耳埋め込み手術を行っています。人工内耳手術は小児にも成人にも行っており、両側埋め込み例も増えています。

### 鼻疾患

慢性副鼻腔炎や鼻閉の原因となる鼻中隔弯曲症、肥厚性鼻炎に対して手術を行います。ほぼ全例内視鏡下で行っており、ナビゲーションシステムの使用により安全・確実な手術が可能です。

### 咽頭・喉頭疾患

習慣性扁桃炎に対する扁桃摘出術、声がれの原因となる声帯ポリープの切除術など、良性疾患に対する治療を行っています。

上記以外にも、他科からの依頼も含め、気道確保のための気管切開術や組織診断目的の頸部リンパ節生検も頻繁に行っています。また手術対象以外の疾患でも、突発性難聴、顔面神経麻痺、重症上気道炎などの治療を入院で行っています。